

経営のヒント227 最後にもらったくまもとサプライズ

また又「くまモン」シリーズです。

「小山薫堂幸せの仕事術」という本に書いてあることです。

職員の意識の変化を一番実感したのが、新幹線の開通にともなって委員会を解散するときに成尾雅貴さんからいただいた『もし、しがない地方公務員集団「くまモンとおもしろい仲間達」が小山薫堂氏の「もったいない主義」他を読んだら』という長いタイトルの新書サイズの体裁に仕上げた手作り本、略して『もしくま』です。

成尾さんが最初にこの本をくれた時、玄関まで見送りに来て、「これ、ファンレターで、感謝の手紙を書きましたんで読んで下さい」と封筒を手渡してくれました。

そして、「今は開けないで下さい。後で開けて下さい。それで付箋のところから読んで下さい」と言われて、何だろうなと思って開けたら、この本が一冊入っていたんです。

僕が以前、ある著書に「365日、読む人のことを考えてない手紙を送っている人がいる」と書いたのを読んでいたのか、あとがきに貼ってある付箋には「お忙しいでしょうから、このあとがきだけ読んで下さい」とありました。それから「多少興味を持ったら、第3章に進んでください。あとは、新書の体裁を取ったサプライズ本にするために書き込んだくまモンの軌跡ですから、読んでいただかなくて構いません。いや読まないで下さい」とありました。

けれども、読まないで下さいと言われると、逆に読みたくなりますよね(笑)

おもしろいなあと思いました。これをつくった成尾さんは、50過ぎの普通の県庁職員なんですよ。

読んでみると、これは、つまり僕に対するありがとうの手紙だったんです。その後、きちんと製本されたものが3冊届きました。

感動した僕は、成尾さんに逆サプライズをしようと思い、県知事が僕の会社に遊びに来た時に、「知事、知っていますか、これ」と言って『もしくま』を見せました。知事も「え、うちの職員にこんなのをやれる人がいるんですか？」と驚いていましたね。

それで、「これを一冊知事にあげるので、今度県庁で成尾さんに会ったら『サイン下さい』と言って、この本を出して下さい」とお願いしました。

知事がこの本を持って、成尾さんに見せてサインをお願いしたら、成尾さんは絶対にびっくりしますよね。

<経営のヒント>

この小山薫堂さんをよろこばそうとした本が、「くまモンの秘密」熊本県庁チームくまモン 幻冬舎新書となりました。

相手をどうやったらよろこぶか？いろいろと知恵を出して考え、そしてやってみることが大切です。

私自身の経験では、このメルマガや感動新聞(15年継続)もこの「感動させたいというサプライズ」からスタートしております。

最初は感動販売学という講座(1年間)を受講して、手紙や小冊子、名入れ、絵などいろいろと挑戦してみました。そう言えば物語にした小冊子も作成したことがあるなあ〜と思い出しました。

私と同じく多くの方が同じ講座を学びましたが、どれだけ実際に行動に移せたのか？疑問です。

情報や知識として吸収しても、行動できるかどうかの方が重要ですよね。

きっと未だに継続をしている人はほとんどいないと思いますが、私は継続こそ力だと信じています。

「サプライズ！ 相手を悦ばしたい！その思い」

改めて、この大切さを痛感した次第です。